

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）	研究 0-1
1. 産業技術学部	研究 1-1
2. 保健科学部	研究 2-1
3. 技術科学研究科	研究 3-1

学部・研究科等の研究に関する現況分析結果（概要）

学部・研究科等	研究活動の状況	研究成果の状況	質の向上度
産業技術学部	期待される水準にある	期待される水準にある	改善、向上している
保健科学部	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している
技術科学研究科	期待される水準にある	期待される水準にある	質を維持している

産業技術学部

I	研究の水準	研究 1-2
II	質の向上度	研究 1-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 一般的な産業技術に関する研究とともに、学部の特色である聴覚障害者支援技術及び聴覚障害者教育支援に関する研究を推進しているほか、そのほかの障害者や高齢者等の支援に研究対象を広げて、ユニバーサルデザイン研究に取り組んでいる。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の科学研究費助成事業の採択件数は15件から20件の間を推移している。
- 査読付き論文数は、平成22年度の25件から平成27年度の54件となっている。

以上の状況等及び産業技術学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特にウェブ情報学において特徴的な研究業績がある。また、第2期中期目標期間の学会賞等の受賞は16件となっている。
- 特徴的な研究業績として、ウェブ情報学の「データ工学的アプローチによる情報保障の研究」があり、ウェブサイト閲覧者の感情の数値化による網羅的な検索を実現している。
- 社会、経済、文化面では、特に教育工学において特徴的な研究成果がある。また、研究成果を基にした各自治体の障害者施設、高齢者施設等の再建計画に参画している。
- 特徴的な研究業績として、教育工学の「聴覚障害学生に対する学習支援に関する研究」があり、聴覚障害学生に対する実技演習を支援するツール及びシステムを開発し、その評価検証を行っている。

以上の状況等及び産業技術学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、産業技術学部の専任教員数は 43 名、提出された研究業績数は 9 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 5 件（延べ 10 件）について判定した結果、「S」は 5 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 5 件（延べ 10 件）について判定した結果、「S」は 3 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 改善、向上している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 学部長裁量経費を学際領域での共同研究へ重点配分するなどの取組により、工学とデザインを融合した学際研究を進展させている。
- 査読付き論文数は、平成 22 年度の 25 件から平成 27 年度の 54 件へ増加している。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- ユニバーサルデザイン研究等の成果を活用して、地元自治体の初任者研修において、ユニバーサルデザイン研修を実施し、都市計画における聴覚障害者、視覚障害者、高齢者、肢体不自由者、妊婦等への対応方法を指導するなど、社会へ研究成果を還元している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

保健科学部

I	研究の水準	研究 2-2
II	質の向上度	研究 2-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 平成23年度に東西医学統合医療センターにリハビリテーション科を開設し、臨床研究の基盤を強化し、保健学科の臨床的な研究に取り組んでいる。
- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の科学研究費助成事業の採択状況は、平均約13.7件（約2,310万円）となっている。
- 第2期中期目標期間の教員一人当たりの論文、著書、学会発表等の研究発表件数は、年度平均約4.4件となっている。

以上の状況等及び保健科学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、東西医学統合医療に関する研究成果を国際的に発信しているほか、特に特別支援教育や腎臓内科学の細目において特徴的な研究業績がある。
- 特徴的な研究業績として、特別支援教育の「あん摩マッサージ療法の職域の開拓のためのエビデンスに基づいた臨床的研究」、腎臓内科学の「透析患者への先進的治療法の実験的研究」がある。
- 社会、経済、文化面では、視覚障害者の生活の質の向上に寄与する研究等を実施している。
- 特徴的な研究業績として、特別支援教育の「鍼灸・あん摩マッサージに関する社会鍼灸学研究」では、鍼灸・あん摩マッサージ事業の市場規模等を調査している。

以上の状況等及び保健科学部の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、保健科学部の専任教員数は39名、提出された研究業績数は9件となっている。

学術面では、提出された研究業績 5 件（延べ 10 件）について判定した結果、「S」は 7 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 4 件（延べ 8 件）について判定した結果、「S」は 5 割となっている。

（※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和）

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 科学研究費助成事業の採択に向けて、採択実績が高い教員を申請アドバイザーとして配置している。採択金額は、平成 22 年度の約 2,390 万円から平成 23 年度の 910 万円へ減少した後に増加し、平成 27 年度には約 2,390 万円となっている。
- 臨床研究の基盤を強化に向け、平成 23 年度に東西医学統合医療センターにリハビリテーション科を開設している。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 東西医学統合医療センターでの鍼灸・あん摩マッサージや腎臓内科に関する研究が国際誌に掲載されるなどしている。特別支援教育の「鍼灸・あん摩マッサージに関する社会鍼灸学研究」では、鍼灸・あん摩マッサージ事業の市場規模等を調査している。

これらに加え、第 1 期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

技術科学研究科

I	研究の水準	研究 3-2
II	質の向上度	研究 3-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 「日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）」の設置や、マルチモーダルな学習資料の開発と普及等、聴覚、視覚障害者に関連する研究を行っている。
- 研究発表数について平成22年度と平成27年度を比較すると、査読有論文数は72件から106件、学会発表数は175件から237件となっている。
- 科学研究費助成事業の採択率の高い教員を申請アドバイザーとして配置しており、第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の採択率は平均60%となっている。

以上の状況等及び技術科学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準にある

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準にある」と判断した。

- 学術面では、特に教育工学、ウェブ情報学・サービス情報学、特別支援教育の細目において特徴的な研究成果がある。また、スウェーデン王立工科大学（スウェーデン）及びカリフォルニア大学サンディエゴ校（米国）と、聴覚障害者の能動的音聴取支援のための国際共同研究を実施している。
- 特徴的な研究業績として、教育工学の「モバイル型遠隔情報保障システムの開発に関する研究」、ウェブ情報学・サービス情報学の「データ工学的アプローチによる情報保障の研究」、特別支援教育の「パーキンソン病患者に対するあん摩マッサージ施術の有用性に関する研究」がある。
- 社会、経済、文化面では、特に特別支援教育、外国語教育の細目において特徴的な研究成果がある。また、「PEPNet-Japan」や「視覚障害学生支援ネットワーク（VISS-NET）」等に研究成果を還元し、高等教育機関における障害学生支援の充実と社会における情報保障の充実に貢献している。
- 特徴的な研究業績として、特別支援教育の「情報保障（文字通訳、手話通

訳)の質的向上に向けた研究」、外国語教育の「視覚障害者対応の TOEIC IP テストの開発に関する研究」がある。

以上の状況等及び技術科学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、技術科学研究科の専任教員数は 111 名、提出された研究業績数は 20 件となっている。

学術面では、提出された研究業績 9 件（延べ 18 件）について判定した結果、「S」は 6 割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績 13 件（延べ 26 件）について判定した結果、「S」は 3 割となっている。

(※判定の延べ件数とは、1 件の研究業績に対して 2 名の評価者が判定した結果の件数の総和)

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 聴覚、視覚障害者に関連する研究を行っており、平成 22 年度と平成 27 年度を比較すると、査読有論文数は 72 件から 106 件、学会発表数は 175 件から 237 件となっている。
- 科学研究費助成事業の採択率の高い教員を申請アドバイザーとして配置するなどしており、第 2 期中期目標期間の採択率は平均 60%となっている。
- 研究成果を『筑波技術大学テクノレポート』に掲載し機関リポジトリで公開するなどにより、特別支援学校や障害者団体等の関係機関に還元している。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- スウェーデン王立工科大学及びカリフォルニア大学サンディエゴ校と、聴覚障害者の能動的音聴取支援のための国際共同研究を実施している。
- 情報保障の質的向上に向けた研究、視覚障害者対応の TOEIC IP テストの開発等、障害者を支援する具体的な研究を推進し、社会に貢献する研究成果をあげている。特に、情報保障に関する研究の成果は、東日本大震災で被災した大学等への遠隔情報保障支援に活用されている。

以上の第 2 期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果を勘案し、総合的に判定した。